

会 議 録 (要約版)

会 議 の 名 称	令和5年度 第3回弘前市上下水道事業経営審議会
開 催 年 月 日	令和5年10月17日(火)
開 始 ・ 終 了 時 刻	午前10時00分 から 午前11時45分 まで
開 催 場 所	弘前市役所岩木庁舎2階 多目的ホール
議 長 の 氏 名	弘前大学人文社会科学部長 飯島 裕胤
出 席 者	会長 飯島 裕胤 委員 柏原 健次 委員 佐々木 公一 委員 青木 智美 委員 齊藤 嘉春 委員 山内 正治 委員 鶴ヶ谷 和子 委員 引間 由実子
欠 席 者	委員 藤田 礼美
上下水道部職員 の出席者	上下水道部長 小野 敦弘 総務課長 中村 洋幸 営業課長 石川 竜明 上水道施設課長 京野 直文 工務課長 千葉 裕朗 下水道施設課長 福士 一之 総務課長補佐 佐藤久美子 営業課長補佐 中村 徹 工務課長補佐 田沢 司 工務課長補佐 奈良岡 健 上水道施設課長補佐 三上 博英 下水道施設課長補佐 高松 誠 総務課主幹 営業課総括主幹 兼経理係長 八木橋達雄 兼営業係長 廣田 恒央 工務課主幹 兼上水道建設係長 小山内 明 総務課総務契約係長 齊藤 智子 下水道施設課 総務課企画係長 佐々木真樹子 施設管理係長 乳井 浩 下水道施設課 下水管路維持係長 齋藤 亨 総務課技師 山上 諒
会 議 の 議 題	【諮問事項審議】 ・水道料金及び下水道使用料の改定について 【報告】 ・弘前市上下水道ビジョンの策定について(中間報告)
会議資料の名称	資料1 水道料金及び下水道使用料の改定について 資料2-1 弘前市上下水道ビジョンの策定について 資料2-2 弘前市上下水道ビジョン【概要版】 資料2-3 弘前市上下水道ビジョン【抜粋版】
会議内容 (発言者、 発言内容、 審議経過、 結論等)	1 開会 2 上下水道部長あいさつ 3 会議 諮問事項審議 ・水道料金及び下水道使用料の改定について ※資料1を基に、総務課より説明。 報告 ・弘前市上下水道ビジョンの策定について(中間報告)

※資料2を基に、総務課より説明。

進行は議長（飯島会長）
各委員との質疑応答等は以下のとおり。

水道料金及び下水道使用料の改定について

青木委員

今回の料金改定の結果、収益がどのように増加するのかをグラフで示していただきましたが、この収益のシミュレーションというのは、人口の推移のところでもご説明いただいたのですが、平成24年～令和4年の10年間で約9%減少しているとか、世帯では一人暮らしが最も多いとのことですが、これからの10年間で人口減少、世帯構成の変動があると思いますが、それを考慮して収益の見積もりをしているということでしょうか。

総務課長補佐

おっしゃる通りで、人口推計に基づいての料金収入予測になっております。

引間委員

まず、16ページにございます公営企業としての取り組みというところで、今後どうなるのかと思ってお聞きしたいのですが、包括業務委託の実施・拡充ということで、平成28年から実施されていると資料で確認しましたが、令和8年3月31日をもって終了した後についてはどのような計画をたてているのか。さらに令和3年から業務を拡充し、62業務から67業務になっていて、委託効果があると拝見しましたが、今後も継続するのか、また、継続されるのであれば拡充についても検討しているのか教えて下さい。

総務課長

第1期の効果からすると、人員の削減と費用対効果の面で、かなり効果があったと認識しております。そのことを踏まえ、包括業務自体は継続していこうと今現在は考えているところです。

営業課長

拡充については、営業部門である料金収納等に関しては、現況のまま実施したいと思っておりますが、その他の部分については検討中です。

上水道施設課長

当課で包括業務委託を実施している業務は、大きく分けて二つあります。1つは道路漏水の修繕業務、もう1つは施設の維持管理業務です。道路漏水の修繕については、漏水の確認調査業務、道路漏水の修繕業務、休日夜間の待機業務の3つが含まれております。施設の維持管理業務につきましては、管路の漏水調査業務、流量・水圧の測定業務、送配水施設の管理業務が含まれております。拡充については、今の段階では考えていません。ただ、修繕業務の休日夜間の待機業務について、実施している受注者のほうで、人員の確保が難しくなってきたという話が出ております。そこについては、何か良い方法はないかと内部でやり方を検討しているところです。

引間委員

もう一点、先日こちらにお邪魔した時に気になったことがあります。下のどこかの窓口で、「人手が足りないので窓口の時間を調整させていただいています」というのがあったのですが、それは委託業務と関係するのでしょうか。

営業課長

現在営業課の窓口で、工事検査の受付担当が不足しておりまして、なるべくこの時間に来てくださいという張り紙をしてあります。これは会計年度職員の採用の関係で少し期間が空いたもので、来月からは平常通りということで、来庁する皆さんにお願いしているところです。

飯島会長

委託業務ではなくて、課の人手の問題ということですね。

佐々木委員

8ページ、9ページのところで、岩木川流域下水道維持管理負担金や建設負担金が増えているということでした。以前の会議で、下水道使用料は上がらなくてもよいのではという内容だったのが、上げざるを得なくなったという理由の大きな1つがこの負担金の増加というお答えがあったと思うのですが、こちらは施設の更新を弘前市の維持負担金が7割弱くらいで推移して計算されているかと思うのですが、この津軽の広域連合で構成されている市町村をみると、弘前市が一番大きいので、弘前市の人口の減少よりも、他の小さな市町村の減少がどんどん大きくなると個人的に思うのですが、そうなると負担金の割合は果たして7割前後でずっと推移するのかということ現実的には若干厳しいのかなと思います。しかも、増加すると金額が大きいので、かなり収益に影響してくるのかなと考えますが、そのところはどのよ

うにお考えなのかというのが一点。

また、汚泥を今までは焼いて捨てていたということだと思うのですが、それを、肥料化施設を作って、肥料にして有効活用すると。そこは非常に良いと思うのですが、この肥料を売った収益というのは、県のものになるのか、それとも、各市町村に分配されるのか気になったので、この二点をお願いします。

総務課長

他市町村が弘前市よりも人口減少の割合が大きいので、結果的に弘前市の割合が大きくなるのではないかと考えていると思いますが、確かにその懸念はあります。ただ、人口以外でも汚水が出る部分としては事業活動もございまして、一概に人口ばかりではないと思いますが、委員がおっしゃったとおり、人口減少による汚水量の減少は弘前市よりも他市町村の方が減っていく割合が多くなるというのは十分考えられます。ただ、今現在、明確にどのくらい減るのかというのがわからない状況ですので、そのあたりは気を付けていきたいと思っております。

また、肥料化の販売による収益というのは、各市町村に分配されるという仕組みにはなっておりません。ただ、地元還元という形で作成された肥料、堆肥ということになるとは思いますが、こちらに関しては地元での販売も考慮されると聞いております。

引間委員

パブリックコメントについて質問いたします。意見の提出方法ということで、5つ挙げていただいておりますが、これについて、例えば様式が決まっているとか、質問項目がいくつかあるなどについて既に決まっているのか。また、記入漏れがある場合は、意見として受け付けないとありますが、記入漏れというのはどこを指しているのか教えていただきたいと思っております。

総務課長補佐

パブリックコメントについての様式は、決まっているものは特にありません。住所、氏名など必ず書いていただくものはありますが、できるだけ今回の料金改定についてお答えしやすいような質問内容にしたいと思っております。記入漏れに関しては、住所、氏名など、最低限必要なものがない場合はお答えできないものとなっております。

引間委員

無記名では受け付けてもらえないということでしょうか。

総務課長補佐

基本、記名式となっております。

佐々木委員

17ページについて、ダウンサイジングによる費用効果は約50億円となっておりますが、これは何年で50億の効果があるのでしょうか。1年で50億なのか、50年で50億なのか、そこがわからないので教えていただきたいということと、施設整備の長寿命化による投資の平準化というところで、調査を行ってリスクの高いものから優先して修繕改築を行い、年間だいたい7億くらいでやりましょうというのは非常によいことだと思うのですが、その削減効果がこのくらいあるというのが示されているのですが、平準化が削減になるというのがピンと来なかったのも、あくまでも平準化は均一にするということだと思うのですが、それをやることで削減されるというのはなぜなのか教えていただきたいと思えます。

上下水道部長

ダウンサイジングによる削減効果50億円についてお答えします。こちらの金額は6万m³の施設を作った場合と、3万8千m³の施設を作った場合の建設費の比較であり、その差額が50億円であり、建てるための費用が50億円削減できるという考えで載せてあります。

工務課長

平準化についてですが、予防保全と事後保全というものがあり、例えば漏水を想定すると、起きてから修繕するよりも、起きる前に施設の長寿命化を図ることで、平準化による費用削減効果につながるという考えです。

佐々木委員

ダウンサイジングについて、建設費のところでは50億円削減になったということであれば、当然、設備が小さくなると薬品費が減るとか、そういうランニングコストも低くなり、その分は別だということでしょうか。

上下水道部長

ランニングコストはダウンサイジングの効果には含まれていません。ダウンサイジングによって、例えば電気料金だと、年間で1千万円削減する効果があると考えております。

柏原委員

15ページに関して、最初の質問と重複するかもしれませんが、水

道料金で必要な改定率というのが 10.9%、その 10.9%は今後の人口減少率も加味してということで算出されていると思うのですが、その人口の減少はマックスで考えているのか、それとも今までの統計でこのくらい今後も減っていくのではないかというもので出したものなのでしょうか。

総務課長補佐

人口推計については、あくまでも統計的に推移をみてということで算出しております。

柏原委員

今後も一人、二人世帯はもっと増えると個人的には想定しているのですが、今の統計で出している数字は令和 2 年度の国勢調査で出しているものを参考にしているのでしょうか。

総務課長補佐

令和 2 年度の国勢調査や実際の人口の統計などで出しております。

柏原委員

もし、人口の減少幅が大きくなると、改定率をもっと上げていかななくてはいけないということも想定されますか。

総務課長補佐

令和 7 年度に改定し、令和 10 年度、令和 13 年度と料金の見直しをする際に、人口減少の推計がどうなるのか、料金収入がどうなるのかによって、改定率を改めて考えていかななくてはならないと思います。

青木委員

23 ページ、25 ページについて、前回、料金体系のことで私が使用料の少ないところへ配慮した料金体系があるのではと意見をしたことで、こちらのシミュレーションを作っていただいたと思います。こちらを見るとやはりパターン B は負担が多くなる部分の増加率が高いので現実的ではないのかなと、この表を見て思いました。このようなシミュレーションの結果は資料として公表されるのでしょうか。やはりパターン A の方が良いのではないかという結論に達したということは何の程度まで公表されるのでしょうか。

総務課長補佐

今回の会議を経まして、約 1 カ月後になりますが、今日の会議録とともに、資料も市のホームページに掲載いたします。審議の内容について、会議録でこういう質問があった、こういう答えがあったという

ことも公表しておりますので、その中でこの料金体系についての検討なども記載されることになると思います。

飯島会長

先ほども委員からもありましたが、下水道の負担金の問題で、今回、下水道使用料の改定案を見て、非常に影響が大きいと感じました。8ページ、9ページになりますが、8ページの部分を見ていただいても、ここ数年で30%以上上がっているということで、弘前市の以前の料金改定からすると、50%で利かないくらい、上がっているのではないかなと思います。人口減少とか、エネルギー価格が高騰しているとか様々な事情があるということは理解できるのですが、一方で我々審議会としては、料金改定のプランにどこまで納得できるのか検討しなければならないと考えています。そういった中で、やはり経営努力がどこまでされている中でのこういう試算なのかということは裏取りしなくてはいけないと思います。市の上下水道に関して、経営努力されて、こういう効果が出ていますという話がありましたが、これに類するもので、県の経営努力等はいかがでしょうか。

総務課長

県の流域下水道の経営努力についてということですが、関係する市町村が年に数回集まって意見交換を行う場があります。その場では、今まで何度か弘前市の要望として、県にも努力していただきたいと申し入れています。ただ、ここ数年の上がり方については、いろいろな要素、特に、燃料・電気など、我々の関与できない部分での値上がり幅もあったかと思います。そういう事情があるとしても、今後も経営努力については県の方に求めていきたいと思っています。

上下水道部長

補足ですが、県には現在、維持管理に係る修繕費などの内容確認をお伺いしております。その内容が適正か私どもからも意見させていただいて、効率的な維持管理に活かしていただけるような確認をしています。

飯島会長

県の取り組み次第ということで、なかなか難しいところだと思いますが、やはり料金改定にあたり、県としてどのように経営努力をする見込みなのか、それに伴う負担金の上昇なのかというあたりは示していただく必要があるのかなと思います。次回までによろしくお願いします。

それから、もう1つ、別の観点でお伺いしたいことがありまして、少量使用者に関することです。やはり高齢者の一人世帯、二人世帯が

かなり多いと思います。こういった世帯がどれだけ負担に耐えられるかという問題を考えなければならないので、そのあたり改めて確認したいと思うのですが、22 ページの水道料金のパターンで、パターンBは難しいということですので、パターンAということになりそうですが、22 ページから 23 ページにかけて水道料金、24 ページから 25 ページにかけて下水道使用料ということでもあります。例えば一人世帯でいうと、23 ページでは 10 m³で 187 円増加となって、25 ページで下水道使用量が 242 円。合計しますと 429 円増ということで考えて良いのか。二人世帯でいうと、307 円と 402 円で 709 円増という風に考えて良いものなのか。その辺りを確認したいのですが。そういう計算で大丈夫でしょうか。

総務課長補佐

その計算で大丈夫です。

飯島会長

一人世帯で一ヶ月当たり 429 円の増加であるということ踏まえて次回も審議するという事で思っております。

水道、下水道を維持するという観点で非常に重要というか、維持できないことはあってはならない、我々の生活が成り立ちません。そういった意味で 26 ページ、27 ページにあるような、補填財源の残高が改定前のようになってしまうと維持できませんので、維持するために改定はやむを得ないという考え方がありますが、その一方で、市民負担は抑えないとならないので、そのあたり次回も議論していただければと思います。

弘前市上下水道ビジョンの策定について（中間報告）

青木委員

資料 2-2 の 3 ページの表について質問します。持続の「1. 経営基盤の強化」の中に、料金体系等の見直しとあります。指標値のところが「必要に応じて実施」とあるのですが、今回の令和 7 年からの料金体系の見直しを、ここに具体的に記載していない理由を教えてくださいというところが一点。

それから、同じく「経営基盤の強化」のところで、上下水道未収金対策の強化、料金回収率の項目があります。この指標値を見ると、どちらも 91.2%、91.1%から変動していないので、先ほどの経営改善ともつながると思うのですが、業務委託をしているにも関わらず、この回収率が上がる目標が立てられないというのはどういうことなのか。やはり、10%弱の未回収はどうすることもできないのか。ちょっと高

いのではないかと思うのですが、この辺に対して、このような目標設定にした理由を教えてください。

総務課長

まず、料金改定について具体的に記載しないのかということですが、今回策定する期間が令和6年度から15年度までということもありますので、令和7年度の改定だけ具体的に描くのは内容的に違うのかなと感じます。次に料金回収率の数字についてですが、この数字は検討中の部分がありまして、策定までにある程度見直して掲載したいと考えておりました。

青木委員

このパーセンテージは他の市町村と比べても特段高いものではないのでしょうか。民間の感覚ではすごく高いと感じるのですがいかがでしょうか。

営業課長

こちらは年度の回収率で、3月に調定を立てた分は入っていないので91%になっていますが、実際の全体の回収率は99%を超えている状況です。相当高いと思っています。

青木委員

91%というのはどのような計算で91%になるのでしょうか。

営業課長

メーター検針をして料金を確定、請求するのですが、3月検針分の収入が翌年度の4月末になりますので、調定が4月検針分から3月検針分で、回収が4月検針分から2月検針分までになっているということで、91%という数字になっています。

青木委員

回収しなくてはいけない水道料金に対して、10%が回収できていないという意味ではないということですか。

営業課長

そうです。10%については、次年度で収入としていますので、当年度分として91%、残りの約10%は次年度の過年度収入となり、こちらに反映されない数字になります。

齊藤委員

56 ページのところですが、上水道と下水道の有収率が表示されて

いますけれども、下水道の場合は、マンホールから水が入って処理水量が増えたということだと思うのですが、上水道は逆に管路からの漏水が原因だと思うのですが、この上水道の86%、88%は1割以上が漏水しているという状況なのでしょうか。

上水道施設課長

有収率についてですが、基本的には委員のおっしゃるとおり漏水による水漏れというのが収入に直接影響します。当課で漏水の調査を行い、危険性のあるところを確認し、漏水していた場合、迅速に修繕をしてなるべく有収率を上げたいと考えております。

齊藤委員

どういう構造のマンホールを使っているかは私もよくわかりませんが、パッキンとか水が浸入しにくいマンホールなどが使われると思うのですが、この辺はやはりやむを得ないということなのでしょうか。

下水道施設課長

下水道の浸入水については、蓋も最近は進歩しまして、道路からの雨水が浸入しにくい仕組みになっています。パッキンというよりも、浸入しにくい構造になっています。ただ、マンホールの蓋開けの穴や、地下水の浸入もありますので、不明水は少なからず発生します。

齊藤委員

上水道は弘前市以外の市町村もだいたいこのような率が普通なのでしょうか。

上水道施設課長

申し訳ありませんが、他市町村の有収率についてはデータを持ち合わせておりませんので、確認できましたら、次回にでもお知らせしたいと思います。

齊藤委員

もう1つ。青木委員のお話に関連するのですが、収納率が翌年に繰り越すというのは、単年度の数字としては理解できるのですが、疑問は持たれると思いますので、これは、次年度に入っても、調定した4月から3月の調定に対して、最終的にはいくら回収しているのか参考でもよいので表示した方がよいのではと考えました。

飯島会長

有収率についてご検討いただいて、次回ぜひ示していただければと思います。

引間委員

ビジョンの抜粋版の資料についてですが、表現について「お客様」が漢字表記、ひらがな表記になっているもの、「具体的な」であろう部分が「具体的な」となっているなど、文言の修正については次回までに修正していただけたらと思います。

先ほどの未収金の部分についてですが、54ページの「民間の力を活用した未収金対策等を講じています」とあり、さらに「安全確実な納入方法であり、収納経費が低い口座振替の利用を推奨する必要があります」と記載があります。未収金対策には当然力をいれていただきたいのですが、口座振替は経費が低いということが上下水道部には重要だと思いますが、私たち市民にすると支払いやすいというのも重要でして、確実に収めていただける方法を広げる方が、お客様サービスの向上につながり、未収分が減るのではないかと思います。

他市の例を見ると、D払いやauペイ、LINEペイも使えるとありましたので、弘前市でも取り入れてみたらどうかと思いますので、参考までにお伝えします。

未収金の問題については長期で払えていない人に関して疑問もあったのですが、時間の関係もありますので今日は質問しませんが、DXのところで、60ページにお客様サービスの充実で、スマートメーターの導入とあり、こちらもDXの推進にもあたると思います。

その他、お客様サービスの向上のため申請窓口、アンケートやイベントなどを通じて、お客様ニーズの把握とあるのですが、もっと具体的な市民に対するサービスというものがあると思います。例えば、引越シーズンだから窓口を延長するとか、実際にやられている、実際にこれからやろうとしているサービスなど、市民の役に立つサービスもぜひこちらに記載していただきたいと思います。他市の例では引越シーズンには窓口を延長しますとか体の不自由な方がいらっしやったときには筆談などで対応しますなどということがビジョンに書かれていて、わかりやすく伝えようとしているなと感じたので、ぜひそういうことも弘前市でやっていただけたらと思います。

飯島会長

他自治体と弘前市の違いもありますので、参考になるものを検討していただけたらと思います。

佐々木委員

55ページに関して、具体的な取り組み事項の⑤「新たな収入源の確保」というところで、水道料金は、水を使っただけでそれが収入になります。人口も減っていくし節水とかを心がけている人が多いので、水の使用量が減少し、売り上げが減少していくので、コストを

下げると。どちらかというとい我々もコストを下げるばかり見ていたかと思うのですが、ここで新たな収入源の確保として収入を増やすことを考えるのは非常によいと思いましたが、でも、どうやって増やすのかなというのは正直なかなか難しいところではあるかと思うのですが、ぜひコストダウンだけではなく、収入を増やすことも考えていただければと思います。

弘前市の上下水道ビジョンは 2024 年から 2033 年ということになっていましたが、弘前市の水道ビジョンというのが令和 2 年から 11 年で、それと経営戦略を合わせたものが上下水道ビジョンになるのかなと図を見て思ったのですが、この水道ビジョン、経営戦略は上下水道部では非常に格が高いというか、基本の戦略になるものだと思うのですが、それを改定すればよいのではと思ったのですが、わざわざ新たなものに作り変えるのはなぜなのだろうと疑問に思いました。令和 2 年から 3 年くらいで終わってしまう水道ビジョン・経営戦略についての振り返りはどうやられるのかを教えてください。

総務課長

水道ビジョンと経営戦略の関係ということですが、私たちは上下水道部ということで、両方の事業を一体的に進めるための基本的な計画ということで、上下水道ビジョンにしようと考えました。これらビジョンの実現性ということになると、経費、費用、収入なども関わってまいります、そこで、経営に関してもこれらを 1 つにまとめて、一体的に進めるための基本計画として上下水道ビジョンを策定することとしました。

前計画の振り返りということですと、上下水道ビジョンは、前回の水道ビジョンを引き継ぐ形になります。前回の水道ビジョン、下水道の基本的計画での反省点や今後進めていくべきことを反映する形で上下水道ビジョンを策定していくものと考えています。

柏原委員

資料を見ているとだいぶ SDG s を意識されているなど感じました。今後具体的に肉づけがされていくと思いますが SDG s をもっと PR する資料作りをしたら、市としても SDG s に積極的に取り組んでいますと市民にも PR できるのではないかと思いますので、ご検討をお願いします。

4 閉会

その他の事項

- ・会議は公開。
- ・報道機関取材は 4 社。